

博物館休館日カレンダー
2026年 10月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1

休館日 ※情報はR8.9.15現在

博物館だより

No.239

令和8年10月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122番地13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS

みんなで活かそう・未来へ繋ごう「みやこ町の宝」

みやこ町ふるさと遺産フェスタ開催！

— 今年のテーマ よみがえる『みやこの曼荼羅』 —

日時：10月18日(日) 13時30分～15時45分／場所：博物館

みやこ町では、令和になってから貴重な仏画、とくに曼荼羅の大修理が相次いで行われました。

大修理とは、修理対象の仏画を徹底的に分析し、クリーニングを行い裏打ち等で補強する、百年に一度行われるかどうかという「根本修理」です。

これまでに3点の修理が行われ、輝きを取り戻した仏画を所蔵する各寺院のご協力をいただき、博物館において公開展示を行うこととなりました。

輝きを取り戻した仏画をゆっくりと見学できる機会です。ぜひ、博物館へお越しください。



▲当麻曼荼羅図(右)と中将姫寓糸曼荼羅織図(左) 〈いずれも部分〉
右図観音像の膝下には装束に截金、膝頭に照限の技法が施される



▲胎藏界曼荼羅図(右)と賢劫千仏図(左) 〈いずれも部分〉
各図中央に描かれる主尊は右が大日如来、左が釈迦如来となる

主なイベント 受付13時～

★フェスタ記念絵画コンクール入賞者表彰
(13時30分～13時55分)

★文化講演会 (14時～15時45分)

・曼陀羅寺所蔵「当麻曼荼羅図」について
九州歴史資料館学芸員 井形進氏
・華高寺所蔵「中将姫寓糸曼荼羅織図」と
国分寺所蔵「賢劫千仏図」について
北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 富岡優子氏
・みやこ町所在の仏画修理について
修理工房 幸匠(株) 宇都宮 正紀氏
※要電話申込(定員40名) 参加費無料

記念展示事業

①企画展「よみがえるみやこの曼荼羅」

※期間 10月18日(日)～11月29日(日)

※大修理後の作品3点(うち1点「中将姫寓糸曼荼羅織図」は養生のためパネル展示のほか、参考作品をご覧いただけます。)

※詳細はHP等でご覧になるか博物館宛てお問い合わせください。

②絵画コンクール入選作品展示

※期間 9月18日(金)～10月31日(土)

◆講座・教室・催し物ガイド

10月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

10月3日(土) 9時30分～

【古文書講座】

10月10日(土) 10時～

【古典かな講座】

10月17日(土) 9時30分～

【みやこ学講座】

10月18日(日) 14時～

学芸員を目指す学生へ 博物館実習を行いました！

8月25日から5日間、学芸員資格取得のため広島大学、福岡大学から2名の学生を受け入れ、博物館実習を行いました。

実習では、資料収集・保管・展示など基本的な業務のほか、町内の文化財や史跡、先人等についても講義等を行いました。

実習終盤には、実習生による資料の展示を行いました。



▲来館者が観覧しやすいよう展示に工夫を凝らしました。

8月の業務日誌から

8月23日(日)、みやこ学講座で鉱物の調査・研究を行っている当館職員による「みやこ町の岩石・鉱物と人の歴史」の講演及び標本製作を行いました。

夏休み期間中、ミニ企画展「みやこと世界の昆虫展」を行いました。
みやこ町や外国の昆虫に興味を持ってもらう貴重な機会となりました。



▲ウッドオパールや軽石、石炭など意外な鉱物がみやこ町で産出されることに驚きました。



▲鮮やかな青い羽根が大人気のモルフォ蝶の標本。興味深々の様子でした。

みやこの歴史発見伝

190

よみがえる「みやこの曼荼羅」Ⅱ

— 相次いだ町内所在仏画の根本修理事業「令和の大修理」 —

令和は曼荼羅大修理の当たり年？

みやこ町では令和に入ってから、仏画、とくに曼荼羅の大修理が相次ぎました。具体的には

- ①令和2・3年度 賢劫千仏図
国分寺(国分)所蔵 室町時代の作品
- ②令和4・5年度 当麻曼荼羅図
曼陀羅寺(勝山久保)所蔵 鎌倉時代の作品
- ③令和6・7年度 中将姫繚絲曼荼羅織図
峯高寺(豊津)所蔵 江戸時代の作品

の3点です。いずれも数百年の長きに亘り護り伝えられた各寺院の宝でしたが、この間進んだ劣化が危機的な状況を迎えたことから「大修理」が行われました。

大修理とは、百年単位で行われる根本修理のことで、ミクロ単位にバラした画材をクリーニングしたり、虫食い穴に同質の絹や紙を、空いた穴と同じ形で繋ぎ目が分らぬよう補充したりといった、繊細で気が遠くなるような修理を行います。

このような修理方法のことを装潢修理技術といいます。日本では限られた職人集団によってのみ伝承されている「究極の修復術」です。

二幅で一つの物語を紡ぐ曼荼羅

ここで紹介する当麻曼荼羅と中将姫寓糸曼陀羅織図は、前号で紹介した国分寺の曼荼羅と共に2年がかりの大修理が行われました。修理によって二つの仏画が輝きを取り戻したのは勿論、この二幅にまつわる物語も一層鮮やかに浮かび上がる結果になりました。その物語をご紹介します。

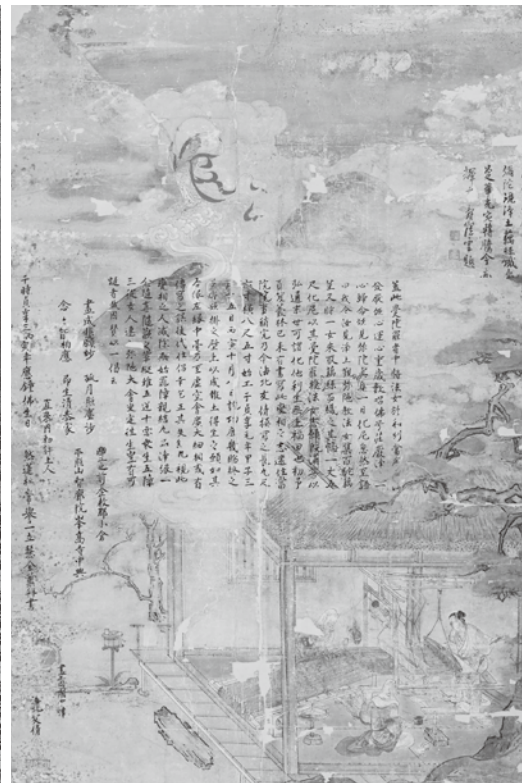
●曼陀羅の作者「中将姫」物語

当麻曼荼羅には、この曼荼羅(注)が一夜で織り上がったという、次のような奇跡の物語があります。

奈良時代の貴族、藤原豊成は長谷観音のお告げで清廉で信心深い娘・中将姫を授かった。しかし後妻の照日(てるひ)は姫をいじめ、ついに山で殺そうとしたが、仏の功德で命は助かり父にも再会。これを機に仏門に入り当麻寺で法如(ほうにょ)という名の尼となった。

ある日の夕方、法如の前に老尼と織姫が現れ、法如がかつて観想した極楽浄土の姿を共に一夜で曼荼羅に紡ぎ出した。曼荼羅完成後、織姫は観音菩薩、老

▲ 中将姫寓糸曼荼羅織図(右)と当麻曼荼羅図(左)
右図は化身の尼達と共に曼荼羅を織る様子 左図は中将姫が観想した眩いばかりの極楽の姿



尼は阿弥陀如来と名乗り、十三年後に法如を迎えに来ると宣言。果して阿弥陀如来は十三年後に二十五菩薩を連れて来迎(らいこう)。法如は穏やかに成仏を果たしたというものです。

(注) 曼陀羅寺等の曼荼羅ではなく、根本曼荼羅として崇敬される奈良県当麻寺の曼荼羅のこと。曼陀羅寺等の物はその写し)

●法如が見た極楽を描く曼荼羅

法如が見た極楽の姿を形にしたとされるのが当麻曼荼羅です。中央には宝楼阁・七宝池といった荘厳華麗な宮殿の中央に阿弥陀如来が坐し、観音・勢至菩薩をはじめとする聖衆に説法する姿が描かれます。周囲には十六観・九品往生と呼ばれる極楽の解説や観法などが描かれ、まさに極楽尽くしといった光景です。これらを描き出す画法は金泥・群青をはじめとする豊富な色彩に加え、截金・照隈といった、当時最高の技法が惜しみなく注ぎ込まれています。

言葉にできないというのほまさにこのことかと思わせる技法や優美な画法を駆使した曼陀羅たち。そしてこれらを再び輝かせるために施された最高の修復術。どちらも人間技だということです。とが信じられないくらいです。

(木村達美)